

小さな窓

車窓に映る彼女は小さな窓を覗き込んでいる
君は何を待ち受けているのか
時折ちらちらと私を窺う その目
絶望の向こう側にある穏やかな海のような・・・

あらゆるものが提供される
あらゆるものが用意される
体験までも
心理までも

それら全てを味わい尽くそうとする
そのことが共通の「目的」となっている
それなのに彼女の目は尋ねている
乾いた唇が尋ねている

「あらゆるもの、というからには
あらゆるものなのだろうけれど
でも、そうでないものを持っていないかしら？
あなたは、それをご存知ないかしら？」

あらゆる軌道上の探索が試みられている
その軌道を踏み外し、新たな軌道を辿ることも許されている
しかもなお、彼女は待ち受けているのだ
未知の領域に足を踏み入れる、その手引きをする者を

私はその眼差しを吸い取ってしまう
それだけが、今の私が返すことの出来る答えだとは情けない
彼女はそれを感じ、不満そうに小さな窓に目を落とす
洪水のように乱れ飛ぶ「あらゆるもの」に・・・

(2004.4.11)